



# まちコレポ

このレポートは、かりや夢ファンド（★印参照）の採択事業をまちづくりコーディネーター【愛称＊まちコ】が取材し、まとめました。

団体名 **NPO 法人幸縁（しえん）**

[令和5年度 NPO 法人設立支援]

## 団体の紹介



補助金額 **10 万円** / 総事業費 **15 万円**

「支援から幸縁（しえん）へ」をモットーに、グアテマラと日本、双方にとって価値が生まれる出会いの中で、すべての人の心に生まれる良き種が花咲く社会の実現を目指しています。グアテマラでは、志があっても教育の機会が乏しく、思いの分だけ努力さえできない子どもたちに教育の機会を提供し、日本では、世界とつながる機会が少ない子どもたちに教育機関と連携しながら同世代同士の国際交流の場を提供しています。そうして全く異なる文化や背景をもった両国の人々がつながる中で、各々が持っている思いや能力が社会の中で形になっていくための活動をしています。

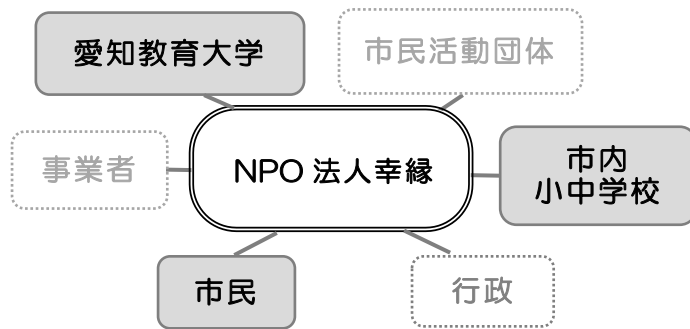
「かりや夢ファンド補助金」は、法人用の印鑑作成や、運営に必要なノートパソコンの購入、オンラインミーティング利用料などに活用しました。



【右】グアテマラにつくる「夢の家」のイメージ

【左】代表の近藤さん

## 協働の役割分担



教育機関 ＜役割＞	市内小中学校3校 東刈谷小学校、富士松東小学校、刈谷南中学校 ＜交流授業の実施＞
市民 ＜役割＞	愛知教育大学生、大学院生ボランティア ＜語学指導ボランティア＞
	サポーター（里親さん） ＜奨学金の援助＞

## 取組みの流れ

### こんな想いでスタートしました

代表の近藤さんは、青年海外協力隊で2年間現地の教育現場を見て、日本と途上国の子どもを取り巻く教育環境の違いを肌で感じ、帰国後もグアテマラとの縁を生涯通して育てていくことを決意されました。

一方的な支援ではなく、双方に益となるよう、オンラインで支援者と受益者の交流の場を設けながら、経済的に困難がある小学6年生の中学進学をサポートする奨学金事業を始めました。

一人でできる範囲には限界があり、チームで動く方ができると考え、NPO法人を設立しました。

### こんな準備をして取り組みました

奨学金事業では、グアテマラの現地協力者と共に、現地公立小学校へ通う“優秀だが経済的に困難のある”小学6年生を数ヶ月かけて選考しました。

責任感があり、将来性のあるグアテマラの子どもを家族のように受け入れ、日本から資金的援助をしてくれるサポーター（里親さん）を募集し、1人の子どもに1人の里親が中学3年間の学業を支える仕組みを作りました。

里親さんがNPO法人の正会員になってくれるなど、立ち上げ期の想いを共有する人たちに支えられました。

### こんな点を工夫しました

奨学金事業と並行し、オンラインでの英語レッスンを通して、日本の子どもにも国際交流の場を提供するという事業スタイルを確立しました。

市内中学校教諭としての経験を活かし、学校の英語授業として展開しています。両国とも英語は第2言語のため、言葉にまつまる部分も似ています。授業は2回を1セットとし、1回目に失敗しても、どうしたらよかったのかを考えることが学習につながります。

●「まちづくりコーディネーター」は、刈谷市民のまちの課題を「自分ごと」と考え、取り組んで行くために、参加のよびかけ・対話・活動の運営をお手伝いしています。

★「かりや夢ファンド」は、刈谷市民が「刈谷のまちをよくしていく」活動を応援する補助金制度です  
【問合せ】 刈谷市役所 市民協働課 TEL0566-95-0002 詳細は市ホームページをチェック！>>



## こんな活動をしています！

### 小中学校児童・生徒との英語交流会

日本において英語教育は盛んになる一方で、実際に英語を使用する場面は多くないため、地球の裏側に住む同世代の子どもたちがつながり合う機会をオンライン上で提供しています。英語教育の枠にとらわれず、「伝えたい」「わかりたい」という思いが子どもたちから湧き上がるような授業展開（例：必ず1対1で話をする機会を設ける等）を担当の先生方と話し合いながら計画しています。

これまでに、市内含め1,200名ほどの日本の子どもがグアテマラの子どもたちと交流しました。直近では、富士松東小学校の英語の授業の中で、6年生77名の子どもたちとグアテマラの子どもたちがオンラインで交流をしました。

#### その他にも…

- ボランティア先生：グアテマラ現地のオンライン環境を整え、英語を教えられる日本人のボランティア教員がグアテマラの子どもたちに英語教育を行っています。
- 教育基金里親制度：日本人がグアテマラの子どもへの学費を支援する奨学金の支援事業です。支援者のうち3名が市内の方です。隔月でオンライン交流会も行っています。

### こんな効果が生まれました

- ・市内の子どもたちが地球の裏側の同世代の子どもたちとつながる機会を提供できました。
- ・多くの子どもたちは、英語でつながる喜びを感じ、もっと英語で話したいという英語学習への意欲を高める機会となりました。
- ・“話したい相手がいる”ことがモチベーションを高めることにつながりました。

### こんな課題がありました

- ・単発の交流会だけでは、途上国の子どもたちが生きている背景を詳しく理解できないのが現状です。英語学習の枠を超えて、国際理解教育につながる学びの場となる機会を、市内小中学校へ提供していける団体になりたいです。
- ・オンライン授業は会場の設備環境に左右されるため、技術面で大変なこともありました。

### 今後に向けて

- ・引き続き、全国の学校と交流会を活発に行い、特に市内小中学校にグアテマラの子どもたちとつながる機会を提供できるよう、学校関係者の方へ情報提供をしていきたいです。
- ・愛知教育大学の学生とつながり、活動に関わっていただくことで、将来教員を目指している学生の方にも、世界とつながる機会を提供していきたいです。

### 参加者の声（交流会1回目終了後）

- ・ジェスチャーをして、相手がわかるようにした。ニコニコ笑顔でエイミーと話した。新しい友達ができうれしい！！（児童）
- ・2回目の交流会では、すらすらとしゃべり、相手に日本の文化について話したいです。秋や冬についてのジェスチャーは難しいけれど、頑張りたいです。（児童）
- ・交流会に向けての質問内容を子どもたちがすすんで準備していました。交流会の時は、英語が通じる喜びを感じ、終わってからは、次も英語で海外の人と交流をもちたいという意欲をもってくれたことがうれしいです。（英語専科の教員）

### 主催団体の声

教員を目指す学生の皆さんへ  
社会経験がなく教科書での学びだけだと、自分の言葉で語ることができません。学生であるうちにつながり、経験して、ぜひ自分で語れる人になってほしいと思っています。私たちの活動がその一助となれば幸いです。

### 取材を終えて…まちコの感想

幸縁さんの取材と、その日に行われた車座集會に参加させていただいて、近藤さんの思いや行動力、実際にグアテマラの子どもたちとオンラインで交流するなど、国際交流の新たな形をこの目で見ることで、すごく充実した取材になりました。

この取り組みは刈谷市の英語教育を一步前に進める取り組みになるのではと思います。というのも「英語で伝えなきゃ」という環境があることで、前向きな努力をするきっかけになると考えられるからです。教科は違いますが同じ教員としても大変いい刺激になりました。（石田 彰宏）